

2011/8/29
第 28 号
(23 年 8 月号)

し の の め



長野県総合教育センター通信

〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4
TEL (0263) 53-8802 FAX (0263) 51-1290 E-mail kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

生徒指導・特別支援教育部長挨拶

金田 弘子

学校が夏休みになった7月下旬から8月上旬にかけて、当センターでは多くの講座が開かれました。生徒指導・特別支援教育関係は10講座あり、大勢の先生方に参加していただきました。私は、ある講座の開講式で、東日本大震災関連のTV報道を見ていて心に残った場面について話をしました。概略は次のとおりです。

避難所にいた保育園年長の女の子が、「どんな1年生になりたい。」と聞かれ、少しはにかみながら「やさしい1年生。」と答えました。また、避難所で1週間遅れの卒業式をやってもらった6年生の女の子は、感謝の言葉とともに「やさしい中学生になりたい。」と言いました。これ以上ない厳しい状況の中で、家族や周りの方々によさくされた体験が二人をして、これからは自分が人に対してやさしくありたいという気持ちにさせ、言葉となって表れたのではないかと想像しました。

もう一つも、避難所での話です。自閉的傾向があると思われるピアノを弾くことが好きな青年は、うるさくしてはいけないと弾くことを控えていました。しかし、「弾いていいよ。」と仰ってくださいる人がいて、青年は好きな曲から次第にリクエストに応じて弾くようになりました。青年の弾くピアノは、避難所にいた人たちにとっては癒しになったでしょう。また、青年にとっては、自分の得意な力を発揮でき、また喜んでもらったことで、満足感と自信、そして厳しい環境の中でも安心感をもつことができたと思います。

避難所とは状況は異なりますが、学校も集団生活の場です。集団の中で、他者から認められている、やさしくされている、大切にされていると感じることができれば、自分に自信を持って自分らしく、そして他者も大事にした生き方ができると思います。また、学校は学習の場です。自分の持てる力やニーズに応じた指導・支援をしてもらえれば、力を伸ばすことができ、一層意欲的に学習に取り組めます。学校生活の大半を占めている授業、その授業で個と集団をどう育てるか、それが私たち教師に求められていると思います。

多くの学校において、学力向上、不登校への対応、発達障害の理解や支援等が課題となっています。先生方が受講し学ばれたことを今後の指導に生かし、子どもたちにとって楽しく充実した学校生活をつくっていかれることを期待しています。



電気自動車試乗会
(7月22日)

エントランスホールとその周辺



エントランスホール1階
一角に中学校・高校用の平成24年度版教科書を展示中



ハクセキレイの親鳥とひな(7月21・22日)
管理研修棟中庭の石陰の巣で温められていた卵からひなが孵りました。



「母子像」
清水多嘉示作
エントランスホールより撮影

研修講座探訪

【ICFを活かした授業・生活づくり】 8月1日（月）実施 （20名受講）

ICFとはInternational Classification of Functioning, Disability and Healthの略で、日本語では「国際生活機能分類」と訳されています。人間の生活機能と障害に関する状況を記述することを目的とした分類であり、健康状態、心身機能、身体構造、活動と参加、環境因子、個人因子から構成されています。新CSではICFの活用について言及されています。

ICFの学校現場での活用における第一人者である、伊那養護学校教諭 伊藤尚志先生を講師に、今年度初めて、ICFの理解と活用についての講座を開講しました。



<講座の内容>

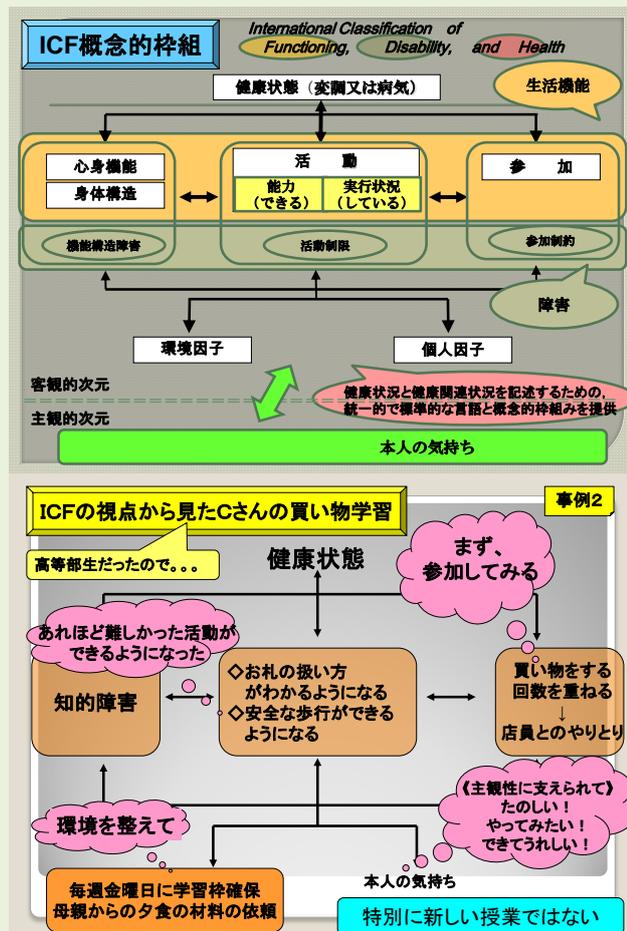
- ① ICFを活かしたSさんの支援
- ② ICIDHからICFへ
- ③ ICFの障害観を活かす
- ④ ICFを活かした支援シート
- ⑤ ICFの分類
- ⑥ ICFの評価
- ⑦ ICFのまとめ
- ⑧ 支援会議ワークショップ
- ⑨ ICFまとめ



支援会議ワークショップの様子

<受講者の感想から>

- ・ICFの研修会はほとんどないので、良かった。
- ・ICFという理論に触れることができ、良い研修の機会となった。
- ・ICIDHからICFそしてICF-CYへの変遷と活用について参考になった。
- ・ICFを個別の教育支援計画や個別の指導計画にどう生かしていくか。さらに学習していきたい。



研修講座探訪

【仮想化技術を活用するネットワーク】6月30日(木)・7月1日(金)

現在社会で注目されている仮想化技術ソフト（Vm ware）を経営情報研修室に導入しました。この仮想化技術は、仮想上でネットワーク構築・サーバ構築・OS設定等ができる最先端の技術が盛り込まれたソフトで、この技術を利用してネットワークを構築することのできる講座を開設しました。本講座の目的は、2点あります。（1）仮想化技術の概念を理解した上で、操作法を学び、仮想上でネットワークを構築する技術を習得すること。（2）ネットワークの基礎知識を習得できる生徒を育成するための指導法を学習すること。以上の2点を理解し、現場に持ち帰ってもらい、生徒の学習意欲の向上に役立てていただくために設定しました。

ネットワークの知識については、IT社会において必要不可欠であると考えます。「ネットが繋がらない」・「どこでデータが途絶えているのか」・「どういう経路でデータが流れているのか」・「それぞれの機器の役割は」などの知識やトラブルに対応できる能力が必要とされています。ネットワークの基礎知識を習得するために、「糸電話で構築するネットワーク」を体験してもらいました。受講者が、それぞれ（クライアント役・スイッチングハブ役・ルータ役）になり、実際のデータの流れやそれぞれの機器の役割を確認してもらいました。受講者からは、「糸電話を使用したことでデータの流れが理解できた」・「それぞれの機器がどのような仕事を担当しているのかが分かった」・「現場で活用したい」などの意見をいただき、非常に好評でした。

また、仮想化技術については、全ての受講者が初めての体験であったため、足並みそろえて、時間をかけ丁寧に説明することができました。受講者からは「丁寧に説明していただけたので、理解することができました」・「実社会で使用されている、最先端の技術に触れることができ良かった」・「この仮想化技術を使用した生徒実習も構築してほしい」などの意見をいただきました。現場で先生方に活用していただけるように、来年度はさらなる研究を深め、より充実した講座が実施できるようにしたいと考えています。



糸電話でネットワークを構築している様子



グループ協議の様子

指定研修を振り返って

教職教育部が7、8月に実施した研修講座を振り返ります

◇高等学校初任者研修「夏期宿泊研修」

7月27日(水)～29日(金)に高等学校初任者研修「夏期宿泊研修」が行われました。中野立志館高校校長荒井和人先生の講義「キャリア教育の推進に向けて」により、キャリア教育の定義、推移及び現状について理解し、キャリア教育の必要性やキャリア教育推進の方策を中野立志館高校の例を基に具体的に学ぶことができました。

信州大学全学教育機構教授小山茂喜先生の講義「授業力向上に向けて」により、授業の構造や授業に必要な力について学び、教師に必要な資質・能力として授業の指導技術や教材開発とともに、使命感、熱意、感性があることを確認し、さらに、授業力向上のために、自らの教師の意思決定の重要性について学びました。

また、模擬授業とその後の研究協議では、自分の授業に対しての意見、評価に加え、他の人の授業を見ることにより、自分の課題確認や課題解決のヒントを得るなど授業力向上のための意義ある研修となっていました。

自然体験では、林業総合センターと野菜花き試験場に分かれ、それぞれの施設について学ぶとともに、実際に体を動かす経験により、長野県の農林業の一端に触れることができ、有意義な研修をすることができました。

<受講者の感想から>

・ 普段の授業で行っていることが、キャリア教育の一環であることがわかった。授業がいかにキャリア教育を意識した内容になっているか、生徒にそれを意識させるかということが重要だと感じた。

・ 自分の授業を見てもらうことで、普段意識できていないことや改善点など、他の先生方の視点で様々なことを教えていただきました。また、他の先生の授業を見ることで、一人で教材研究をしているだけでは知り得なかったものがたくさん見えました。



木登り体験研修

◇10年経験者研修「共通必修研修Ⅲ(中・高)」 「共通必修研修Ⅲ(小・特)」

8月4日(木)と8月5日(金)に10年経験者研修「共通必修研修Ⅲ(中・高)」 「共通必修研修Ⅲ(小・特)」が行われました。本講座の研修テーマは、「人権教育と学級経営」でした。

総合教育センター教職教育部辻清隆専門士の講義「長野県における人権教育の現状と課題」では、現在に至るまでの人権教育の流れから長野県における喫緊の課題に対する理解を深めました。続く実践発表では、三岳中学校の板花利美教頭、上田宏志、早川春彦両教諭から「総合的な学習の時間の中で育む人権感覚」と題して、全校生徒が、保育園・幼稚園、特別養護老人ホーム、特別支援学校の三つのコースに分かれて施設訪問したこと、また、御代田北小学校の直井義和教諭から「校内における人権教育の推進」と題して、異学年や地域との交流活動を位置づけたこと、両校とも人との関わりを通して人権感覚を高めていく学習活動の発表をしていただきました。両校の実践発表から全校で年間を通じて交流活動を行うことで教育効果を挙げていることが理解できました。午後は、名城大学教職センター准教授曾山和彦先生の講義・演習「3つの視点からみた学級経営の在り方～学習指導・生徒指導・特別支援教育～」が行われました。3つの視点から見たとき、どの子にも居場所となる「良好」な学級づくりのために、人とのかかわり不足による現代の子ども像や教室でできる特別支援教育に配慮して、教師がソーシャルスキルや自尊感情育成のためにどうアプローチすればよいか具体的に演習を通して学びました。

<受講者の感想から>

・ 自分と違う他者である幼児や特別支援学校の生徒との交流を通して、自分以外の仲間の良さを認め、さらに自己肯定感を育んでいく姿に感動しました。

・ 「人は人の中で人となる」「最高、最強の教材は教師自身」の言葉を聞き、教師の在り方を再構成したいと思いました。



曾山先生の柔らかな語りと演習「アドジャン・トーク」

今からでも間に合う研修講座(9月・10月開講の講座) 8月26日現在

分野	講座番号	講座名	対象	日程	募集人数
教科等	3-1-08-05	中学校美術基礎	中高特	10/26	6
	3-1-08-26	楽しい工作と造形遊び	幼小中特	9/27~28	4
	3-1-09-05	基礎縫い指導のいろは	小中高特	10/6	2
教育課題	3-2-04-01	学校における国際理解教育	小中高特	9/15	6
	3-2-09-01	学校における情報セキュリティとモラル	小中高特	10/25	18
情報・産業	3-3-01-03	初めての情報モラル・セキュリティB	小中高特	10/4	5
	3-4-10-01	専門教育の基礎と教科指導	職業学科	9/30	16
	3-4-13-02	商業科目の新指導法	高(商)	10/6~7	14
	3-4-30-21	マネジメントから始める学校創り	職業学科	10/24	27

追加募集は10日前まで受け付けています。HPで確認して電子申請で申込みをお願いします。

信州型事業仕分けについて

9月に実施される信州型事業仕分けの対象事業の一つとして、「教職員研修事業（総合教育センター事業）」が選定されました。日程は以下のとおりです。

9月3日（土）伊那会場

1班（教育・子育て）伊那合同庁舎 13:00~14:00

それに先立って、8月19日（金）に仕分け人の方々による現地視察が行われました。所長による事業説明の後、講堂をはじめとした主な研修室、相談室や食堂、知新寮などの施設を視察していただき、最後に、質疑が行われました。

◇質疑で出されたおもな質問

- ・たくましい先生を、どうつくっていくか。
- ・採用後、数か月でも実社会を経験して、現場に出ることについてどう考えるか。
- ・研修を受けた後、それをどう生かしていくのか。
- ・教職員以外の研修の受け入れはしているのか。
- ・希望研修を受講する教職員が全教職員の約3分の1であるが、この数字をどう考えるか。
- ・宿泊施設の利用料が安すぎないか。なぜ金額を上げないのか。
- ・日帰りの人は利用料をいくら払っているのか。
- ・生徒が実習で使う設備や機器にはどんなものがあり、更新状況はどうなっているか。

好評提供中!

算数・数学

「クリア問題」「チャレンジ問題」

小中学校の16名の先生方により新たなスタート

クリア問題 6年 8月号

小中学校の先生方を中心とした問題作成委員会が5月に発足し、7月号より問題の提供を始めました。児童生徒の実態、新しい学習指導要領の内容などから、問題を作成しています。

学級、学校の状況に合わせて活用

小学校での活用例

クリア問題を、家庭学習として、週末に配付。月曜日に集め、担任が答え合わせをします。すると苦手なところがわかるので、算数の授業の時に扱ったり、ちょっとした時間に個別に声をかけたりして、1週間のどこかで補充するようにしています。週末に、また同じ問題を配付し、定着状況の見定めをしています。

チャレンジ問題を、校内の掲示板上に拡大して掲載し、学校全体で子どもが楽しみながら取り組めるようにしています。子どもの解答を見ながら、考え方のよさを認めたり、学習内容の確認をしたりするようにしています。

中学校での活用例

ドリルの時間に、15分で答え合わせまで行います。定着が不確かなところを生徒自身が確認し、毎日の「提出ノート」の中で取り組ませるようにしています。月末には、同じ問題をもう一度行う機会をとり、生徒自身が自分の学習の手応えを感じられるようにしています。

ダウンロードはこちらから...

<http://www.edu-ctr.pref.nagano.lg.jp/kjouhou/index.htm>



【関連資料】

全国学力・学習状況調査（国立教育政策研究所）

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

評価方法等の工夫・改善のための参考資料（国立教育政策研究所）

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>